

不得意と得意

通信簿を書く教師としては、成績が悪いと評価されたことにより、その劣っている点を努力して直そうとする態度を子どもやその家庭に期待するものでしょうが、およそ自己の短所欠点を直すということは、よほど自覚のあるりっぱな成人でも、なかなかできることではありません。

私など、50歳を越えても、自信のある得意な面では努力を少しも惜しみなく傾けることをしますが、欠点を改めたり苦手を克服するという面では、心の中で「ほんとは努力した方がよいのだが…」と思っても、なかなか実行には移せないでいます。

分別のあるおとなでさえ、得意なものは、「やらないでも結構」といわれても、なおやりたく思いますが、不得意なものはやろうともしないのが人情ですから、まだ分別のつかない子どもが、不得意なものを、「不得意だからこれを克服しなければならない」と覚悟して努力するはずがありません。

得意なものを生かして

およそ、不得意なものは、やるのが苦痛だからできるだけこれを避けようとし、得意なものは、やるのが楽しいから一層努力してやるというのが人間に与えられた本性のように思われます。

人間は、これらの天性を与えられているからこそ、それぞれに個性のある人間に成長するのであって、また、それ故に、個人個人がおたがいに異なった長所を身につけて、複雑であるこの世の中のいろいろな仕事を、それぞれ自分に適した分野で受け持って活躍することができるのです。

人間の世の中に驚くほどの進歩発展があるのは、他にも理由はありませんが、その大きな一つは、人間にこの天性が与えられているからだ、と私は思っています。

ばらの花はほんとうに美しい。けれども、世の中にばらの花しかないということになったら、この世はさびしいものでしょうね。やはり、桜

の花やすみれの花や、タンポポの花や菜の花や、その他いろいろな花がほしいですね。ぱっと咲いてぱっと散っていく花、色あせてもなお散ろうとしない花、濃艶な花、淡白な花、豪華な花、可憐な花、いろいろなタイプの花があってこそ、世の中は美しく楽しいものになるのです。

何でもできる必要はない

世の中には、いろいろな仕事があります。だから、世の中の人々が、皆、総理大臣となる能力を持つことは、決して望ましいことではありません。大将ばかりの軍隊では戦争ができません。えらい大将よりも、えらくない兵隊の方がたくさん必要であるように、この世の中では、えらい総理大臣よりも、普通の人の方がたくさん必要なのです。

だから、正しく言えば、だれもが大臣を目指すような教育は、決して正常な教育ではない、と私は思っています。同様に、国語も算数も理科も社会科も、何でもよくできることを求める教育は、決して正常な教

育だとは思わないのです。また、同じ一つの教科、たとえば国語科にしても“聞く、話す、読む、書く”といういくつかの分野があります。そのどれもが皆よくできる、ということも決して望ましいことだとは思いません。

“話す”ことはじょうずではないが、“読む”能力はすばらしいとか、“読む”能力はそれほどでもないが、“書く”ことにかけては先生さえ及ばないほどすぐれているとか、“書く”ことは、からきしへただが、“話す”ことにかけてはクラス第一番であるとか、そういう欠点もあれば長所もあるということの方が、現実の世の中では役に立つと思うのです。

好きな教科を伸ばそう

前にも述べましたが、不得意なものをやるのは苦痛で上達が遅いけれども、得意なものはやるのが楽しくて進歩が速いのですから、不得意なものに力を入れるよりも、得意なものに力を入れた方が能率的であって、その方が、その人のためにも社会のためにも、より有益だ

と思います。

だから、私は、学校教育で、すべての教科にひとしく努力することを求め、学力においてもすべての教科にすぐれていることを理想に目指していることを、いけないことだと思っています。

「現実には、すべての教科にひとしい努力を払っても、実際にはできないの差が出て来て、結局、いろいろなタイプの人間ができる上がる。せめて、理想として、すべての教科にひとしく努力させることが必要ではなかろうか」という考え方もあります。しかし、それならなおのこと、そんな無駄な努力をするように求めてはいけません。

「理想としてはすべての教科に高い学力を求めて、現実にはそうならないことを認める」というのでは、“現実の社会に役立つ、個性のある人間はすべてでき損ないである”ということになってしまいませんか。

何でも適当にできる人間がよくて、特殊能力を持った人間ができ損ないである、というのでは、同じ仕事をやるのにも張り合いがないでしょう。現実の社会が、いろいろの能力を求めている以上、ある種の能

力さえ身につけたなら、他の能力はなくても、現実の人間としては、りっぱな人間、望ましい人間と見るべきだ、と私は思います。